

インタープリターのリスクマネジメント

インタープリテーションにおける危険管理(安全管理)について整理してみよう。IPの場合、参加者(並びに本人)の怪我や事故からの回避だけでなく、学びや気づきに対する障害も「リスク」、と考える必要がある。以上の両方のリスクマネジメントを考える時、心理学者マズローの欲求五段階説をベースに整理するとよい。この説は、上方の欲求は下方の欲求がクリアされて発生する、というもので、最上段の「自己実現(気づきや学び)」が達成される条件が整うには「整理・安全・親和・自我」の四つの欲求をクリアしていることが基本的に必要、という考え方だ。

まず**第一段階**は、「生理的欲求」だ。インタープリテーションの現場では、参加者が感じる暑さ、寒さ、風の強さなどの天候の条件や、雑音、空腹や喉の渇き、参加者の立っている場所(斜めだったり軟らかすぎたり草を踏んでいたり、など不安になる要素がないか)、などが考えられる。更に、インタープリターの立ち位置や対応の仕方も関係する。太陽に向かって立つこと、騒音を参加者の後ろに置くこと、参加者全員の見える位置にたつこと、話しながら移動しないこと、声の大きさ、スピード、間合い、滑舌などが聞き取りやすい適度さを保つこと、などが考えられる。

第二段階は「安全の欲求」である。身体的な安全については、一般的なリスクマネジメントでのとらえ方と同様で、「事前、プログラム時、事後」の3つの段階において整理することができる。

「事前」:下見の実施(危険箇所や危険生物の把握:時間帯、対象者層への配慮)、携帯電話が使用可かどうか(並びに緊急時の連絡方法の明確化)、救急病院の所在確認、危険の予測(KYT:危険予知トレーニング)、救急法の技術取得、保険加入など。

「プログラム時」:プログラム前後の参加者数の確認、参加者への危険周知、直前の声かけ(活動の範囲、集合時間、危険内容など:経験度合いごとの配慮)、現場で発見した危険の回避など。事故が発生してしまったら、けが人の救急対応、けが人以外の動きの支持、必要な箇所(病院、プログラムの主催者、けが人の家族)等への連絡などがあろう。

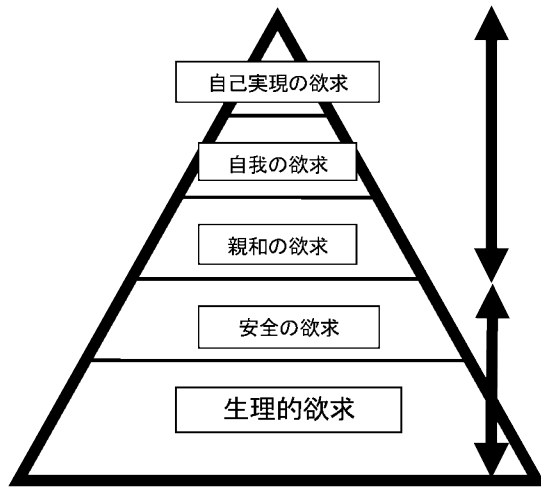
「事後」:事故があった場合、けが人(並びに家族など)への誠意ある対応、保険対応に加えて、事故原因を明確にした事故報告書を作成し、次回事故が起きないようにフィードバックしておくことが重要である。事故がなかった場合でも、ハイリソフの法則(1:29:300/1件の事故の前に 29 の小さな事故があり、その前に 300 のヒヤリハットがある)を意識し、ヒヤリハットについて関係者が共有しておくことよい。組織で活動している場合は、安全管理マニュアル、安全管理マネージャーを設定すべきだ。

第三段階は「親和の欲求」。共通の目的を持って活動しているグループであることの確認、個々の感じたことや意見が共有されること、参加者に丁寧に対応すること(ホスピタリティー・マインド)などがある。全員が輪状になってお互いの顔が見え、やりとりできる体型をとることも重要だ。

第四段階は「自我の欲求」。活動しているグループの中で自分の存在が大切にされている、と感じてもらえるようにすることを大切にしよう。個々の意見が尊重される、という雰囲気も大切である。参加者の発言や行動に対してリアクションすること、受け止めること、平等に対応することが参加者の自己肯定感につながる。

以上の欲求が満たされることを経て**第五段階**の「自己実現の欲求」に到達する。この段階になって自発性や学びや気づきへの準備が整う、と考えて良い。この状況を作らずに情報を伝えているだけでは、参加者に学びをもたらすことは少ない。学への「リスク」を上手にクリアすることが、効果的なIPにつながっていくと考えてよいだろう。

- Self Actualization Needs
 - ・モラル・創造性・問題解決・自発性
 - ・事実認識 等
- Esteem Needs
 - ・自己肯定(尊厳)・信頼・達成
 - ・他者による敬い 等
- Social Needs
 - ・愛・所属・友好・家族・性的親密性
 - ・社会性 等
- Safety Needs
 - ・身体の安全・安心
 - ・雇用(社会的安定) 等
- Physiological Needs
 - ・呼吸・食・水・性的・睡眠・排泄
 - ・ホメオスタシス 等



間接的欲求
精神的欲求
出現する欲求
下方の欲求が満たされると
直接的欲求
物質的欲求
生命として基本的な欲求

図. マズローの欲求五段階説(ヒエラルキー)

発行：東京都立奥多摩湖畔公園 山のふるさと村ビジターセンター 〒198-0225 東京都西多摩郡奥多摩町川野 1740 TEL：0428-86-2551 FAX：0428-86-2316 E-mail：yamafuru@hkr.ne.jp URL：http://www.yamafuru.com 企画・編集：自然教育研究センター 2011年10月発行	< 編集後記 > 記録的な台風の後、ふと気付けば森の中は少しずつ秋の装いとなっていました。吹く風もひんやりとして、日差しも穏やかです。そう思えば、10月というのにツツクボウシの鳴き声が…。色々な出来事が起こっている今年は、昆虫も困惑してるのでしょうか？(原島)
---	---